

協議の場のとりまとめ

市町村名 (市町村コード)	伊賀市 (242161)			
地域名 (地域内農業集落名)	河合 千貝			
協議の結果を取りまとめた年月日	第1回	令和 7 年	3 月	4 日
	第2回	令和 7 年	3 月 1 7 日	第3回 令和 年 月 日
	第4回	令和 年	月	日

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2：「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・当地区では農業者の高齢化が進んでいるものの、地区内の担い手農家は経営規模の拡大をめざしていることから、農地の受け手となり、今後も継続的に農地が維持される見通しである。

・50才、30才の年代に就業者がいない。周辺地域との経営統合も将来の姿として考える必要がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・当地区の栽培品目は次のとおりである。

主要な栽培品目は、水稻（麦・大豆）である。

露地野菜としてキャベツ、ネギの栽培。
果樹として梅、イチジクの栽培。
- ・担い手経営体が規模拡大を進めるにあたり、より効率的に農作業を行えるよう農地の集積・集約化を進める必要がある。
- ・担い手経営体が規模拡大を進めるにあたり、生産体制の最適化を図るため、スマート農業の導入を進める必要がある。
- ・担い手経営体が規模拡大を進めるにあたり、より効率的に農作業を行えるよう乾田化をはかっていく。
- ・環境への負荷をできるかぎり減らしながら持続的な農業を進めていくため、有機農業への取り組みを検討していく必要がある。
- ・新規就農者育成のために伊賀ふるさとアグリ株式会社が研修農場を開設する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	27.63 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	15.7 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

・農業振興地域内の農用地及びその周辺の営農条件のよい農地を基本とする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
担い手農家へ農地の集積及び団地化を進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
必要に応じて、農地中間管理機構を活用していく。

<p>(3) 基盤整備事業への取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の既存の農道は未舗装の箇所が多く、道路面が荒れているため、道路の舗装に取り組みたい。 ・既存の用排水路は老朽化が進み、メンテナンスに苦慮していることから、水路の更新を検討する。
<p>(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市やJAとも連携し、地域内外から多様な経営体を受け入れ、地域に定着できるように農地のあっせんや栽培技術等の支援を行う。
<p>(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期にはライスセンターを活用する。 ・井植苗の一部委託を行う。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/>	③スマート農業	<input checked="" type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他

<p>【選択した上記の取組方針】</p> <p>①電気柵</p> <p>②特別栽培米対応</p> <p>③ドローン・ラジヘリの導入、作業効率化</p> <p>④保全管理農地の生産緑地化</p> <p>⑤品種の分散（収穫期の分散）</p> <p>⑦圃場の機能向上、乾田化をはかる</p> <p>⑧共同施設化、費用軽減</p>
